

施設葉物野菜の有機栽培に適した土壌基準を解明 ～有機農業の更なる生産拡大に向けた研究成果～

農業総合センター園芸研究所では、本県有機農業の更なる生産拡大に向けて、基盤となる土づくりに関する試験研究に取り組んでいます。

このたび、ビニールハウス等の施設での葉物野菜の有機栽培において、安定した収量を得られる土壌基準を明らかにしたため、ご紹介します。

研究の背景と方法

有機農産物の更なる生産拡大に向けては、安定生産に寄与する土づくりが非常に重要です。しかし、これまで科学的な観点から、有機栽培に適した土壌条件が明らかになっていませんでした。

そこで、有機栽培に多く取り組まれている葉物野菜のうち、施設栽培のコマツナについて、県内有機農業法人の協力のもと、42地点（有機栽培年数3～14年）の土壌サンプルとそれぞれの収量データについて、調査・分析を行いました。



科学的に明らかとなった土壌基準

写真：調査圃場の様子

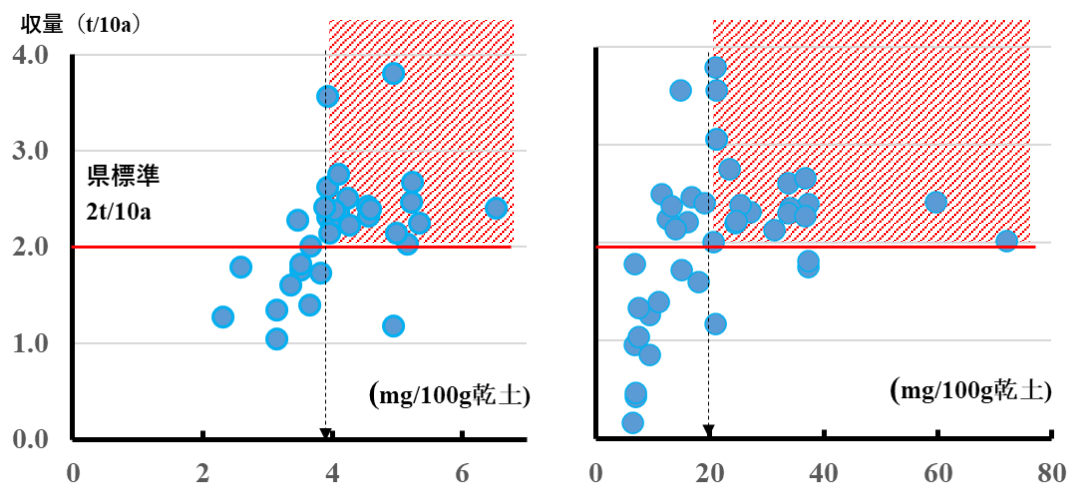


図 土壌中の可給態窒素（左）・可給態リン酸（右）含量とコマツナの収量

施設栽培のコマツナで有機栽培を行う場合、乾燥土壌 100g あたりの可給態窒素は 4mg、可給態リン酸含量は 20mg を上回ると、県標準収量 2 t / 10a を安定的に確保できることが明らかになりました（図）。これらの基準は、土壌改良の目標設定や新たな有機栽培圃場の選定などの参考となります。

今後、本成果を普及し、本県有機農業の更なる生産拡大につなげていきます。

※土壌の分析は最寄りの地域農業改良普及センターや JA 全農茨城へご相談して下さい。

※対象品目はコマツナだけではなく、施設栽培の葉物野菜には本基準値が適応可能です。

【問合せ先】

茨城県農業総合センター園芸研究所 担当：研究調整監 藤田裕

電話 0299-45-8340 ファックス 0299-48-2545

本件に関する詳しい情報（園芸研究所 HP に掲載）

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/enken/seika/yasai/yosai/documents/r6yasai3.pdf>

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/enken/seika/yasai/yosai/documents/r6yasai4.pdf>

